



臨床研修病院群プロジェクト むりぶし 群星沖縄(豊見城中央病院)視察記

(因)あかね会土谷総合病院 望月高明



平成19年度の全国医師会勤務医部会連絡協議会が10月13日に沖縄で行われました。

広島から沖縄への飛行機の直行便は午前中の1便しか飛んでいません。前日の12日に沖縄入りをするとうちに時間が空くこととなります。この時間を利用して、医学生に人気の高い沖縄の卒後臨床研修の実情を視察することとなりました。

参加者は、勤務医部会部会長 望月の他、副部会長の黒田・山本両先生、担当理事の高田先生、事務局の佐々木・中元の両氏でした。午前10時頃に那覇空港に着き、午前中は那覇国際通りや牧志公設市場廻りをうろついた後、沖縄料理での早い昼食を済ませて、豊見城中央病院を午後1時頃訪れました。

沖縄には、沖縄県立病院群、群星沖縄プロジェクト、琉球大学を中心とするRyuMicプロジェクトの3つの臨床研修群があります。訪問した豊見城中央病院は、群星沖縄プロジェクトとRyuMicプロジェクトの両方から研修医を受け入れており、定員はそれぞれ9名、3名を毎年受け入れています。平成19年10月発表のマッチング結果でも100%のマッチ率で医学生に大人気です。

沖縄県の卒後臨床研修プロジェクトがいかに

医学生から評価されているかはその高いマッチ率(H17年:92%(全国1位)、H18年:81%(全国4位)、H19年:85%(全国2位))からも明らかです。ちなみに広島県は、平成19年度のマッチ率63%で全国24位でした。

マッチ率が低いことは、県全体としての若手医師不足を招来し、広島県としても深刻な医師不足が生じることとなり、何らかの対策が必要となっています。

豊見城中央病院では、副院長で研修管理委員長を兼務されている城間寛先生(広島大学:昭和59年卒)から群星沖縄プロジェクトについての説明を受けました。長時間にわたり親切、丁寧な話を聞くことができました。参加者一同、大変感謝しています。

このプロジェクトは、平成16年度より開始された新臨床研修制度にあわせて発足しています。沖縄県の7つの民間管理型臨床研修指定病院を中心に構成され、プロジェクト発足の目的は研修事業の歴史が浅く、知名度も低く、教育指導のノウハウも未熟である病院が集まって、お互いの弱点を補い協力しあって「研修医本位のプログラム」「研修医本位の教育環境を整える」ことであり、具体的には以下の7つのコンセプトのもとに運営されています。

①多数の研修病院が思想信条を超え、一致協力して、沖縄においては日本の明日の良き臨床家を育成する ②多数の病院群で環境を整えることにより、研修医にとってベストの研修プログラム、ベストの教育環境を構築する ③グローバル・スタンダードの医療を実践する ④Common Disease中心の救急、プライマリ・ケア研修を実践する ⑤米国との医学医療交流を通じ、Faculty Developmentに力を注ぐ ⑥研修医の欧米臨床留学制度を確立する ⑦研修医と共に医療の質を向上させる

グループを統括するものとして、研修センターがあります。その主たる役割は、①隔週に行われる研修委員長会議を通じての指導医達への働きかけ ②各研修医の研修状況の把握 ③群星沖縄プロジェクトの広報活動です。ここも実際に訪れました。浦添市内のマンションにあり、センター長、事務局長、秘書1名、スタッフ1名の4名で構成、参加病院からの分担金にて運営されています。センター長には、米国型臨床研修事業を確立された前沖縄中部病院院長の宮城征四郎先生が就任されています。宮城先生はこの群星沖縄プロジェクト発足への並々ならぬ熱意を示され、院長定年を1年残してセンター長に就任されたということです。残念ながら私も宮城先生にお会いすることはできませんでした。城間先生の話では、各臨床研修病院で月2回ずつの頻度で教育回診を行われ、指導医と研修医両方の直接指導に当たられているほか、知識・経験・人脈を活用して研修プロジェクトの発展に力をそそがれているということでした。

具体的な研修医の指導プログラムについても説明を聞きました。前述の7つのコンセプトを

実現するためのプログラムが着実に進められており、これが全国の医学生に人気の源であると理解しました。また、「研修医を指導することを通して、指導医も成長する」との言葉もそれなりに理解できました。

しかし、これだけのプログラムをこなすための指導医の負担は大変なことはすぐ予測され、私も最初に城間先生に質問しました。「通常の臨床業務以外に臨床研修医の指導にこれだけ頑張るためのモチベーションは何ですか？」と問うと、それは「宮城先生がおられるからです。実際仕事はきつく、度々仕事を投げ出したいくなるが、宮城先生がおられるからやってきている」との返事でした。この返事を聞いて群星沖縄プロジェクトでは、宮城先生が39年間かけて沖縄中部病院で育成された米国式の臨床研修システムが、文化としてその弟子を通して沖縄の民間病院にまで根をおろし始めていると感じました。一方、この素晴らしいプロジェクトも指導医の無報酬での献身的な労力によって支えられており、城間先生の姿勢を全ての指導医に強要できるものではありません。国の制度としての指導医制度の確立が必要です。

最後に、沖縄を訪れる前は、沖縄での臨床研修の人気が高いのは沖縄県が医師不足を解消するための方便として、充実した臨床研修プロジェクトを推進しているのではないかと、したがって研修終了時には医師の囲い込みが盛んに行われているものと想像していましたが、これは誤りでした。群星グループとしても、囲い込みを避けることで意志統一がされ、研修終了時にはグループとして後期研修病院の紹介事業を積極的にされていました。

